

*NPO Links* あいづ

## 市民活動中間支援機能強化事業

協働の次のフェイズを目指して

NPO Links あいづ 共同代表 新城榮一





## 目次

- ① なぜ今、「協働」が必要か？
- ② なぜ「中間支援機能」が必要か？
- ③ 本事業で行う3つの柱
- ④ 市との役割分担・事業終了後の姿と展開・
- ⑤ 団体「*NPO Links あいづ*」について
- ⑥ 予算内容説明





## ① なぜ今、「協働」が必要か？

- ◆ 広義の「協働」はかなり広い範囲を含むので、ここでは「協働」を「行政と民間の協働」に定義する。
- ◆ 協働が必要な理由(例)
  - i. 課題の複雑化と、その解決策の高度化。
  - ii. 多様な価値観の形成。
  - iii. 行政だけで地域づくりを行うことの限界。
  - iv. ……
- ◆ ハイブリッド仮説

「2011/06/13 日本立地センター IM養成研修 前期スクーリング」





## ハイブリット仮説(抜粋)

- 県内アチラコチラ伺うようになって、やたらと車の走行距離が伸びる...
- 面積広い。
- 公共交通機関がアテにならない。
- 自分自身がやたらとセツカチ。
- (一応)会社もやらないとイケない。





## で、ハイブリット車(2009年)

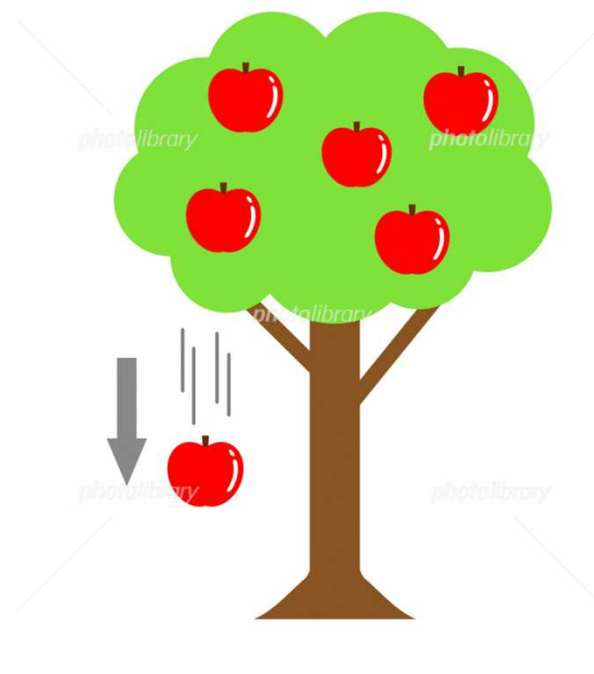
- 身銭を切ってプリウス体験しました。
- 燃費⇒3倍弱
- 給油回数⇒半分
- ガソリン代⇒1/3





## システムの近似

- 水平思考
- 異分野の成功の応用は「ビジネスの鉄則」
- リンゴから重力……







## ハイブリット車の燃費が驚異的な理由

- 「**エンジン**と**モーター**が互いに弱点を補い合い、相乗効果で性能面に寄与する」
- ❖ **エンジン**が発生する力(トルク)の大きさは、燃料を燃やす量に依存している。単位時間当たりにより多くの燃料を燃やすには、排気量を増やすか、回転数を高めるしかない。この特性が、クルマの発進や加速時に弱点として現れてくる。
- ❖ まずピストンやクランクシャフトなど**エンジン**内部のパーツは重い金属製だから、それを動かして回転数を上げるには大きなエネルギーが必要だ。回転数が低い状態でアクセルを踏むと、燃料から得た出力の多くは、**エンジン**自身のパーツ類を動かすために費やされてしまうため、効率が悪くなる。
- ❖ また**エンジン**は、アクセルを踏んで燃料を増量しても瞬時には回転数が上がらない。つまり、発進や加速でパワーが必要なときに、すぐに大きな力を出せないという弱点を持っている。
- ❖ 一方、電磁力で作動する**モーター**は理論上、停止＝ゼロ回転時に最大の力を発生して、回転数が高まるにつれて減少するという特性を持っている。また、供給する電力の増減に瞬時に反応して力が増減する。つまり**エンジン**と**モーター**は、お互いの得意分野と不得意分野が正反対の関係にあるわけだ

(松田勇治(2009)“ハイブリット車はなぜ燃費が良い？モーターの役割はなに？”日経トレンディネット)





## ハイブリット仮説

- 「行政と民間が互いに弱点を補い合い、相乗効果で性能面に寄与する」
- ❖ 行政が発生する力の大きさは、燃料を燃やす量に依存している。単位時間当たりにより多くの燃料を燃やすには、人数を増やすか、予算を高めるしかない。この特性が、事業の発進や加速時に弱点として現れてくる。
- ❖ まず議会や条例など行政内部の組織は重い構造だから、それを動かして予算を獲得するには大きなエネルギーが必要だ。予算が低い状態でアクセルを踏むと、燃料から得た出力の多くは、行政自身のパーツ類を動かすために費やされてしまうため、効率が悪くなる。
- ❖ また行政は、アクセルを踏んで燃料を増量しても瞬時には回転数が上がらない。つまり、発進や加速でパワーが必要なときに、すぐに大きな力は出せないという弱点を持っている。
- ❖ 一方、情熱で作動する民間は理論上、停止＝ゼロ回転時に最大の力を発生して、時間経過につれて減少するという特性を持っている。また、供給する予算や人員の増減に瞬時に反応して力が増減する。つまり行政と民間は、お互いの得意分野と不得意分野が正反対の関係にあるわけだ。

(前頁を基に新城が作成)







## ② なぜ「中間支援機能」が必要か？

- ◆ 地方での「民間」側の個々の能力がどうしても弱い。
- ◆ 民間のメンバーを増やし、1つ1つの力を増大させて「行政と民間が補い合って地域を創っていく」必要がある。





### ③本事業で行う3つの柱

#### 1. 情報発信

- ◆地域内でこのような情報発信事業が有効で効果的であることの検証を行う。
- ◆必要な情報、効果的な情報発信手法、マッチング手法の模索を行う。





### ③本事業で行う3つの柱

## 2. 伴走支援

- ◆市民活動団体の立ち上げ期、創設期の伴走支援を行う。
- ◆なぜ伴走支援か？
  - ⇒1つ1つの団体は皆、異なる。
  - ⇒その目的も、資源も、状況も、残された時間も、メンバーも異なる。
  - ⇒1つ1つの団体やグループに寄り添った伴走支援が必要。





### ③本事業で行う3つの柱

#### 3. 他団体との交流

- ◆主に県内各地の団体との交流を通して、今後の中間支援のあり方、進むべき方向性を探り、団体として定義していく。
- ◆福島県内での他団体とのネットワーク化を強固にすることにより、情報収集能力、情報発信能力の向上に努める。





## ④市との役割分担・事業終了後の姿と展開

- ◆ハイブリット仮説で示した「行政の信頼性・持続性」と「民間の機動性・適応性」を活かした取り組みを行っていく。
- ◆声を掛ける団体等へのデータベース提供、広報等に関しては市の信頼性を活かし、そこにスタートダッシュ良く声掛けを行って、効率的な事業の展開を図る。
- ◆事業の進捗に当たっては市とのすり合わせを綿密に行い、市の示す方向性と、我々が動く方向性が乖離しないよう、ベクトルの一致を目指す。





## ④市との役割分担・事業終了後の姿と展開

- ◆事業終了後は、当団体としてサイトを運営していくと同時に、本事業の有効性を行政に対しても提案していくことで、恒常的に展開が可能な様に予算付けを働きかける。
- ◆予算付けが為されない場合でも、可能な限り自費で事業の継続に取り組む。
- ◆当団体内でも、得意な分野での担当制等、団体メンバーの特色や資源を活用できる体制を組んでいく。







## ⑤団体 「NPO Links あいづ」について

- ◆ 今後ますます複雑・多様化していく地域課題の解決のため、地域内のNPO法人等がこれまで以上に情報を共有し、各団体や構成員相互の連携・協働を通して、市民の皆さんや行政と力を合わせていくための緩やかなネットワークの構築に向けて、その主体となる組織「NPO Links あいづ」を設立。

(2017年7月)

- ◆ 現在市内9団体で組織され、稼働している。
- ◆ 令和元年には「中間支援機能」を目指していくことを決議して、その役割を担う存在となっていく。





## ⑥ 予算内容説明

- ① 人件費における情報収集・更新の単価は福島県の臨時雇用者の単価を援用し、かつ県の最低賃金を下回らないものとした。
- ② 伴走支援単価は過去の「市民活動相談事業」における会津若松市からの謝礼額を援用した。
- ③ 情報サイト制作・サーバ運用に関しては、一般的なホームページ立上げの価格を援用した。実施に当たっては複数社から見積を徴収し、最低価格を探る等、費用の圧縮に努める。
- ④ 旅費に関しては福島県の県内出張単価を援用した。実施に当たっては旅費規定を策定する等、厳正な執行に努める。

